

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月7日
枚方市立楠葉西中学校

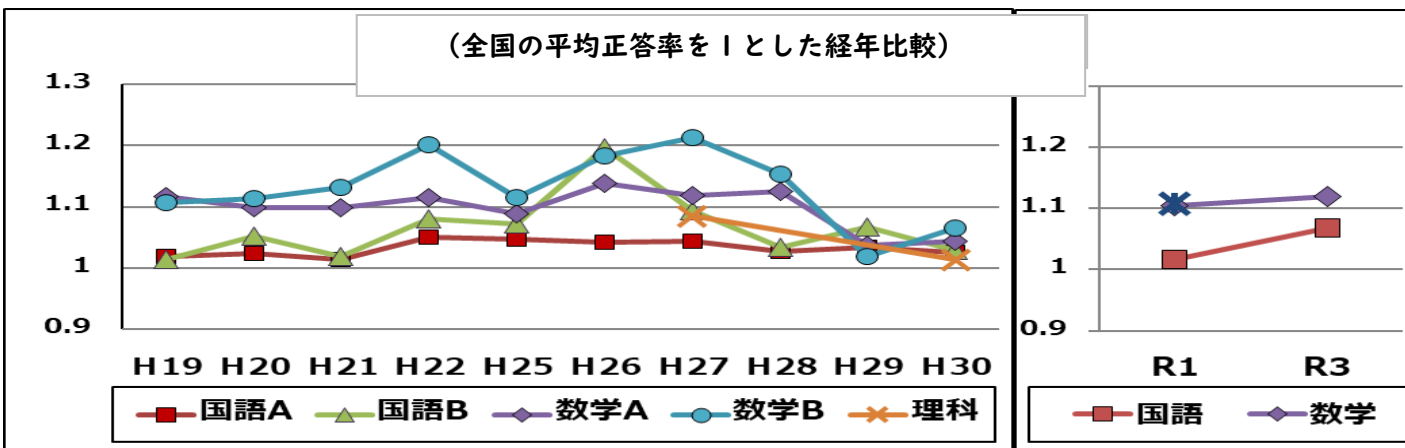
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)



<学力調査結果の概要>

○国語について

→無回答率が全国や大阪府と比較して高かったのは6問ありましたが、1問を除いて、正答率はすべて全国や大阪府より高い傾向にありました。また、無回答率と誤答率が高かった1問については、話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えて記述する問題でした。

今後は、国語の文章教材的なものではない意見文の下書きの構成や、話し合い活動における話し合いの方向性などに関して考える学習も意識的に行ってまいります。

○数学について

→度数分布表において、本校は全国と比較しても比較的右側に寄った分布になっており、全体的な力の底上げができていると考えられます。特に、理由を説明する力が求められている問題では、高い正答率を出していて、班活動を通して探求する力が定着してきたと思われます。しかし、説明する問題の中でも数学的な用語を使って説明する問題においては、課題が見られました。おおまかなイメージは掴めているものの、それが用語と結びついていないことが要因と考えられます。今回の結果を受けて、間違えてしまった問題の分野はしっかりと復習しておくといでしょう。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

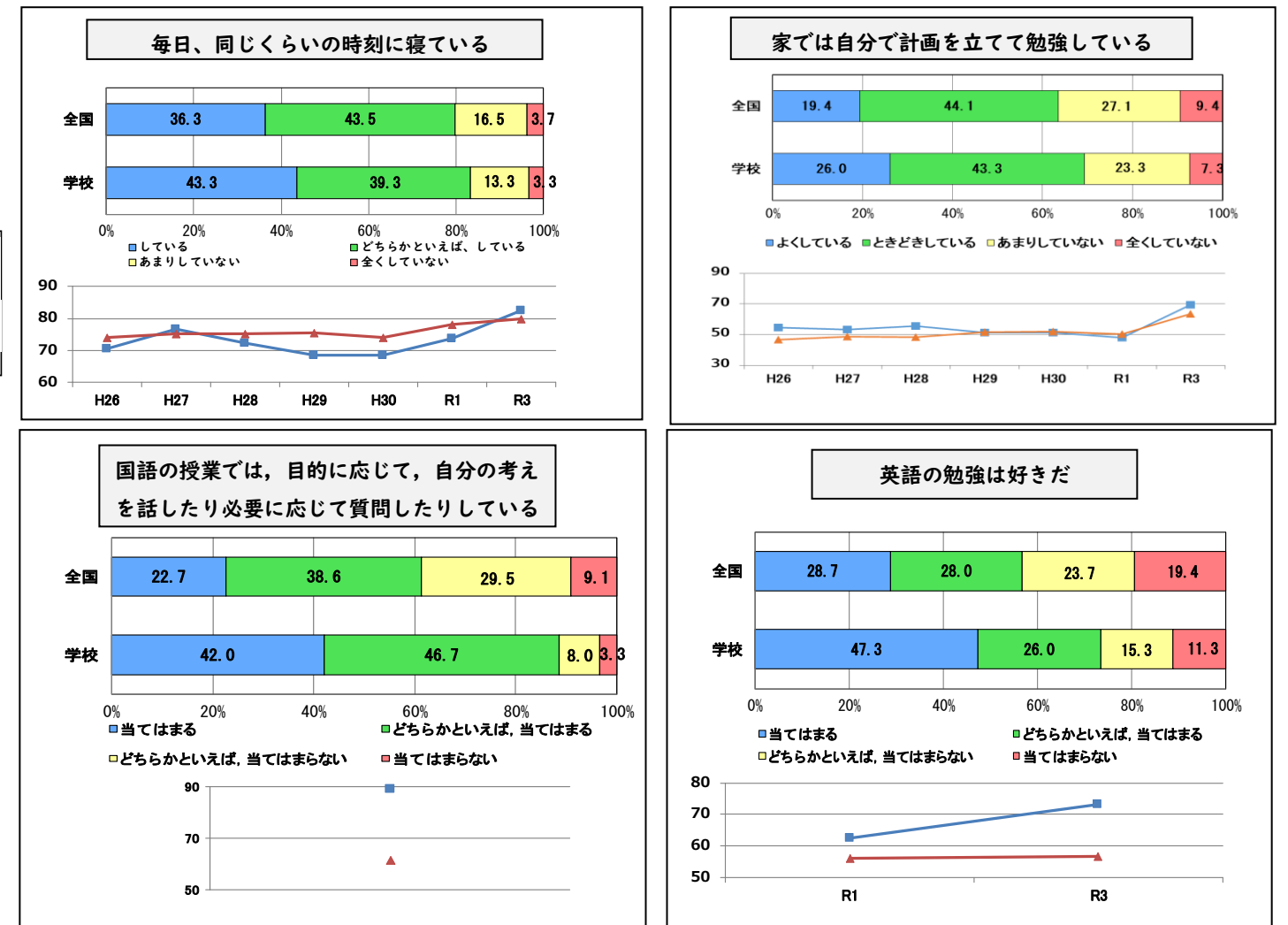
※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の調査は、令和3年度は行われておりません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>ほとんどの質問項目で肯定的回答が上昇しました。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている。」の質問では6年ぶりに全国平均を上回りました。また、「家では自分で計画を立てて勉強している。」の質問においても肯定的回答が大きく上昇し、全国平均を上回り過去最高となりました。後のページにもありますように、本校の重点課題として取り組んでいる自己有用感や挑戦心に関する「自分には、よいところがあると思う。」の質問では肯定的回答が初めて全国平均を上回り、さらに「将来の夢や目標を持っている。」の質問においても6年ぶりに全国平均を上回る結果となりました。

まとめ

各家庭での生活や学びがこのような好結果に結びついています。保護者の皆さまの本校学校教育へのご協力を改めて感謝申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの教育活動ですが、柔軟に対応している生徒たちの協力もこの結果に大きく影響しています。今後も引き続き「学校でしかできない学ぶ喜びをすべての生徒に」をテーマにした授業づくりと、調査科目のみならず、全教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等すべての教育活動により「自己肯定感」の育成につながる「キャリア教育」の充実に努めてまいります。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

四 題意に「...」とあるように、...
 条件1 「...」から、「...」...
 条件2 「...」の「...」...
 ※左の枠は、下書きに使用してはなりません。解答は必ず解答用紙に書かれます。

	正答率	無解答率
本校	33.6	15.4
全国	20.5	24.1

(考察)

全体の正答率は高くないが、全国よりも本校の正答率が最も上回っている問題である。文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持てたかが出題の趣旨である。文学的文章において、登場人物の言動や行動に対してどう思うかといった自分の意見を書き表すことは授業の中でよく行っており、それが今回の結果に結びついたのでないと思われる。

【課題】

三 両中学校の大自然の活動のあとで、...
 条件1 「話し合いの...」...
 条件2 「...」...
 ※左の枠は、下書きに使用してはなりません。解答は必ず解答用紙に書かれます。

	正答率	無解答率
本校	55.7	4.7
全国	57.1	3.4

(考察)

話し合いの流れを踏まえた上で、そのあとどのような発言をすればよいのかという内容の把握とともに、場に合った発言を考えることが必要であった。誰へのどんな発言をするか、理由という3点を、選択肢から選ぶのではなく、記述で答えるという点でも難しさはあった。また、話し合いの文章自体にあまり慣れていないということが考えられる。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

(1) 二人は、前ページの図1の四角形ABCEが平行四辺形になると予想し、予想が成り立つことを示すために、次の図4をかきました。

図4において、△ABCと△CEAは合同なので、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。
 このことから、四角形ABCEが平行四辺形になることは、平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。下のア、イのどちらかを選び、選んだ条件を用いて説明しなさい。ア、イのどちらを選んでも説明してもかまいません。

ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
 イ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

	正答率	無解答率
本校	59.1	2.7
全国	44.3	3.6

(考察)

2つ条件が提示されていて、好きな方を選択し説明する問題であるが、正答率において本校は全国を大きく上回る結果となった。また、問題文が比較的長い問題であったが、無回答率は低く、諦めることなく果敢に挑戦していることから、本校の生徒が全体的に力をつけてきていることがうかがえる。

【課題】

(3) 桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

気温差の度数分布多角形

気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

	正答率	無解答率
本校	9.4	26.2
全国	11.1	32.2

(考察)

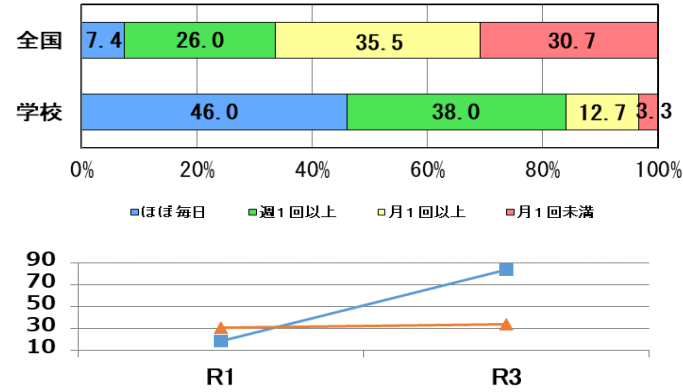
「2つの気温差の度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい」という問題であるが、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明しなければならないため、比較的難度の高い問題と言える。数学的な用語と自らの説明するイメージが結びついていないことが全国より正答率が下回ってしまった要因と考えられる。

質問紙に関する調査

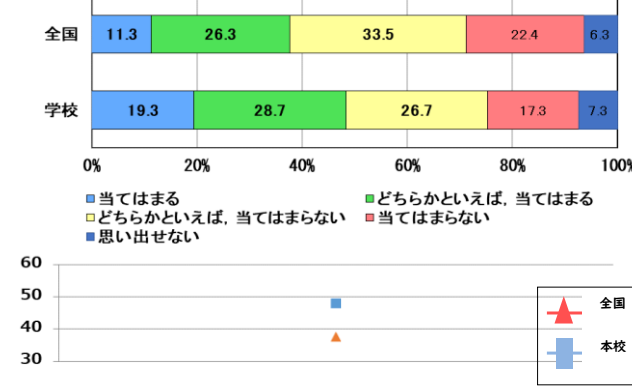
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

【タブレット等 ICT に関する項目】

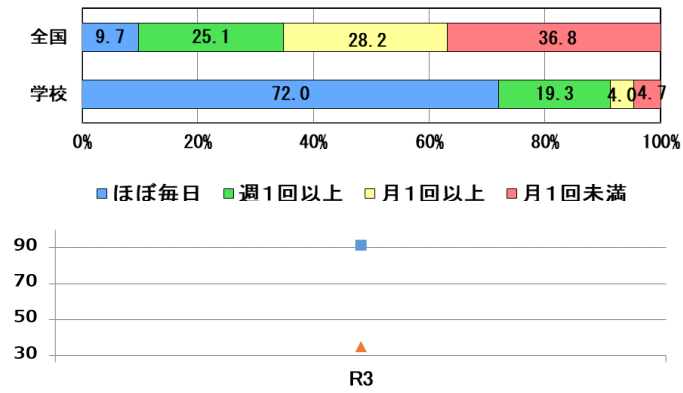
1.2年生ときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



去年の4～5月ごろ(学校が臨時休校していた時期)、計画的に学習を続けることができた



あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか

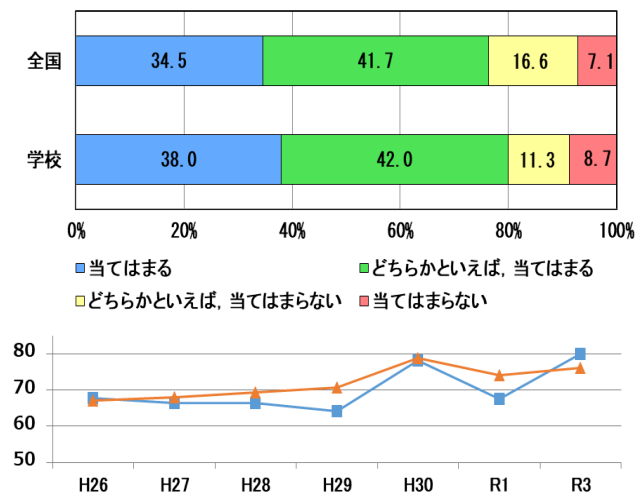


(考察)

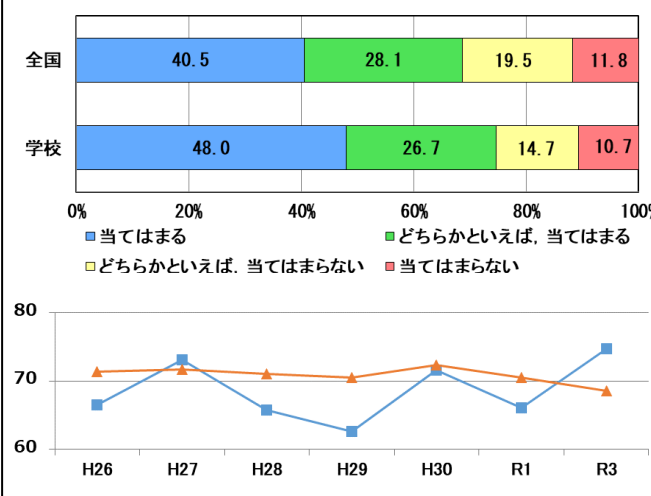
令和元年度より枚方市教育委員会の指定を受け、タブレットをはじめとするICT機器の有効活用について研究を進めてきました。昨年度、本市の生徒一人一台タブレット貸与により各授業における効果的な活用がはじまりました。さらに、新型コロナウイルス感染症対策を目的としたオンラインによる授業や行事の工夫も進み、このような結果になったと考えられます。また、生徒たちも各教科の連絡や学級での連絡、行事などClassroomを有効活用し、これから求められる力をつけつつあります。今後もコロナ対策及びGIGAスクール構想に向け研究を進めてまいります。

【成果のあった項目】

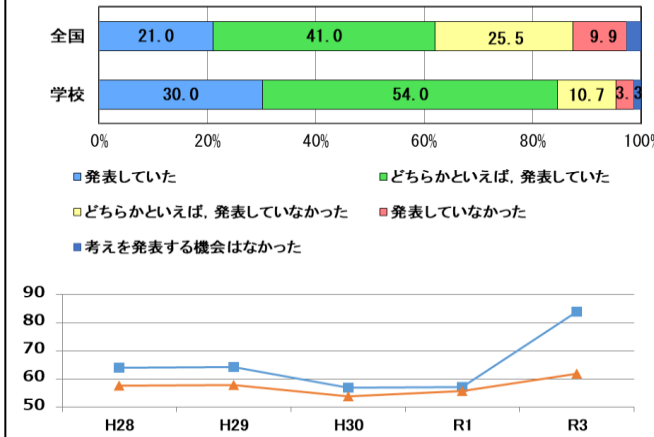
自分には、よいところがあると思う



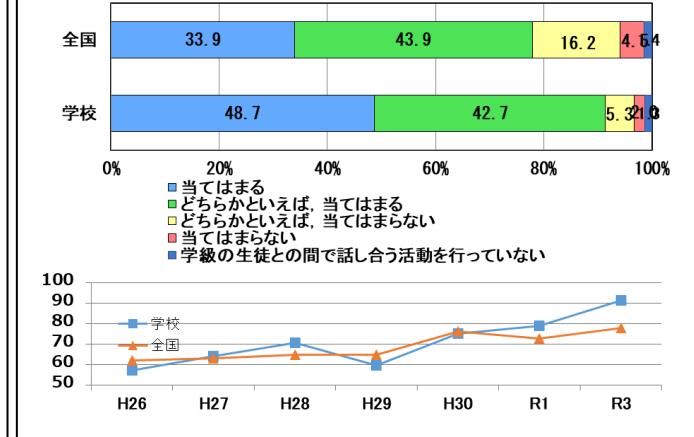
将来の夢や目標を持っている



授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している

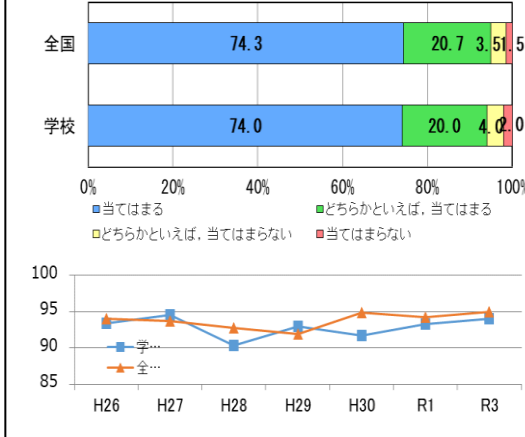


学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

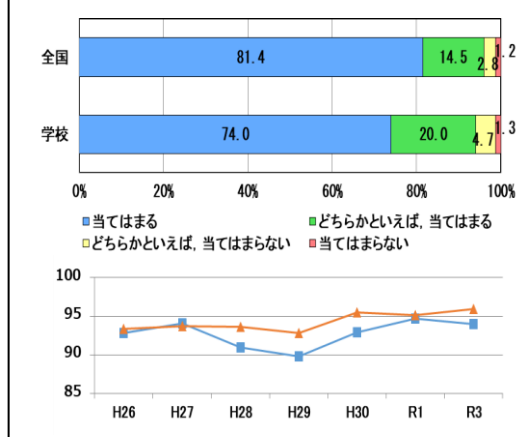


【課題が残った項目】

人の役に立つ人間になりたいと思う



いじめは、どんな理由があってもいけない



(考察)「人の役に立つ人間になりたいと思う。」の肯定的回答は全国平均よりも下回りました。SDGsの取組により今後上昇していくことを期待します。いじめに関する項目では全国を下回りました。「道徳」だけでなく、すべての教育活動をとおして「いじめ」のない学校づくりを一層進めてまいります。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

4人班を積極的に活用した対話的な活動によって、主体的で深い学びの実現に向けた授業をすべての教科において取り入れるようになって4年になり、今年度は「学校でしかできない学ぶ喜びをすべての生徒に」をテーマに授業改善に取り組んでいます。その中で生徒たちは、まとめる力、伝える力を着実につけてきています。

今後もこの取組を継続する一方で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、学習内容や教科独自の醍醐味に興味を持たせるような授業をめざし、各教科部会をさらに活性化させ、教科を横断した授業研究を深めていきます。また、iPadを授業における必須アイテムとして、より有効に活用できるよう職員全体で研修・研究を行って参ります。

(2) 家庭学習について

家庭での学習習慣を定着させるため、今年度はGoogle-classroomを積極的に活用し、各教科からの課題提出や授業ワークシートの復習などを行えるようにしています。また、生徒たちが自ら提出状況を把握して課題に取り組めるようになっており、計画的に取り組める生徒も増えてきました。定期テスト前などでは、タブレットドリルを使って自ら学習できるよう案内も行っており、有効活用している生徒もいます。ただ一方で、家庭でiPadに触れる習慣がなかなかつかない生徒やオンライン上でのやり取りだけになることに不安を感じる生徒も少なくありません。また、文字を書く習慣も必要であることから、紙とiPadを適宜使い分けながら、ハイブリッドな形で行っていく工夫をして参ります。

最後に、今後も学習習慣と基礎学力の定着のため、放課後学習会を定期的に関き、学習支援を行って参ります。